



夜の荒川神輿が下る

川は万灯の迎え船

祇園囃子の笛や太鼓で夜が明ける

「直江津小唄」



直江津祇園祭がいつ頃から始まったか、その正確な記録は残されていません。



祇園祭に関して現在わかっている一番古い記録は、高田城主から八坂神社へと送られた寄進状で、「例年通り祇園祭に御供米（祭典費）を出すから、高田城下まで神輿を出して国家安全を祈願せよ」という内容です。



みなとまち直江津は

長い歴史の中で

祇園祭を中心に地域の強い結束力
(コミュニティ)を築いてきました

歴史と人情あふれる直江津の中心に

直江津小学校はあります

これから始める物語は

ストーリー

学校運営協議会(汐なりCS)と
共に取り組む

未来の学校づくりに向けた歩み…

共育・協育・響育で高め合う 汐なりコミュニティ・スクールの取組



上越市立直江津小学校

直江津地区周辺の様子



直江津小学校区の様子

ライオン像がある
昔の銀行



「がんぎ」が続く古い町並み



商店街



学校の近く
で開かれる
三八朝市

地域の宝物

文月や

六日も常の

夜には似ず(芭蕉)

直江津にて



林芙美子文学碑・森鷗外文学碑・芭蕉句碑・与謝野晶子歌碑など

直江津小学校の現在

○児童数 (H27.7.31現在)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
26	24	38	19	25	19	151

○通常学級 6学級

○特別支援学級 4学級 (知的、情緒、肢体、難聴)

通級指導教室(言語)1学級

○教職員数 22名 (校長、教頭、教諭、養護教諭、栄養教諭、主任、 介護員、用務員)

平成27年度 グランドデザイン

重点目標→思考力や表現力、協同的に学び合う力に着眼

合い言葉→響き合い ともに高まる
汐なりコミュニティ
～むねをはれる学校
あたたかい家庭
つながる地域～

3プロジェクトによる取組
→学びプロ・心プロ・健康安全プロ

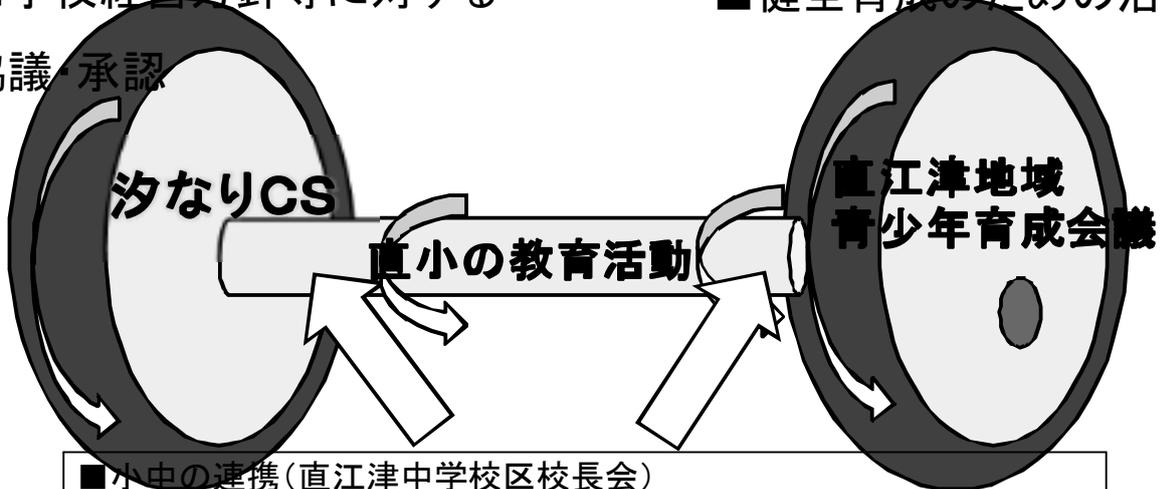


直江津小学校の子どもを支え、 見守り、育てる組織

■学校経営方針等に対する

■健全育成のための活動

協議・承認



■小中の連携(直江津中学校区校長会)

- ・学力向上部会
- ・生徒指導部会
- ・教育課程部会
- ・人権教育、同和教育部会
- ・特別支援教育部会

学校運営の基本的な考え





共育...目指す子どもの姿に向けて、学校・保護者・地域が共に歩み、成長する

協育...よりよい教育活動の提供のため、学校・保護者・地域が連携、協力する

響育...健やかな子どもの成長と共に、学校・保護者・地域が心を寄せ合い、響き合う

共育・協育・響育の汐なりCS

コミュニティ・スクール(CS)

☆上越市は、平成24年度から全小・中学校でCSを実施

「共育・協育・響育」で取り組む汐なりCS

学校・家庭・地域それぞれが担う役割を自覚し、力を合わせて共に高め合い・磨き合うことで、結果として子どもたちのよりよい成長につなげる。



《汐なりコミュニティ・スクール協議会(汐なりCS)》

■コミュニティ・スクールで学校改革、地域づくり

- ・平成24年5月発足

地域と共に歩む学校づくりを一層推進

- ・教職員の意識改革

地域に根ざした教職員

- ・学校課題の解決

保護者、地域との連携強化による

学校教育の充実

- ・地域づくりのお手伝い

推進の核と
なる学校運
営協議会



《汐なりコミュニティ・スクール協議会(汐なりCS)》

■規約

- ・上越市が作成したものがベース
- ・予算に関しては関係団体と協議

■委員...15名

- ・1号委員(保護者) ... 4名 PTA役員等
- ・2号委員(地域住民) ... 5名 関係団体役員等
- ・3号委員(校長) ... 1名
- ・4号委員(教職員) ... 2名 教頭、教務主任
- ・5号委員(学識経験者) ... 3名 退職校長、大学教員

■会議

- ・学期1回を基本とする年3回の開催





直江津小学校の子どもに
最も必要な学力はなにか...

学校課題を解決するためのCS委員と 学校職員による熟議と協働

ワークショップ形式で問題を検討、集約、そして課題の共有へ



**共
育
協
働**

《平成26年度汐なりCS 1学期の取組》

昨年度の合い言葉	とものつくろう 汐なりコミュニティ	
むねをはれる学校	あたたかい家庭	つながる地域
<p>○第1回CS協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の方針 → 熟議、承認 ・授業参観による授業評価 ・学校評価アンケート項目の設定 「汐なり教育の日」の方向 		
性		
課題の共有（重点目標とメディアとの関わり）		
チャレンジ10・思考力の育成・プロジェクトの取組から		
学校保健委員会（メディアとの関わり）6/13子ども向け講話		
子育て教育講演会（ネット利用の実態と課題）7/11 保護者・地域向け講話（中学校教頭、市教委指導主事）		
子ども・教師自身の取組評	保護者自身の取組評価	

《学校評価の改善から生まれていった教育活動》

□従来の学校評価アンケート項目例(保護者)

「子どもは家庭学習に進んで取り組んでいますか」

「災害時の避難場所について子どもは知っていますか」



- ・評価項目が消極的である
- ・保護者にもっと積極的に子どもとかわかってほしい

保護者の子どもへのかかわりが向上
していく学校評価アンケートへ

《学校評価の改善から生まれていった教育活動》

□従来の学校評価アンケート項目例(保護者)

「子どもは家庭学習に進んで取り組んでいますか」

→ 「学習参観等に進んで参加し、子どもの学習状況をとらえて支援していますか」

「災害時の避難場所について子どもは知っていますか」

→ 「災害時の避難の仕方や避難場所について子どもと話をしていますか」

保護者の子どもへのかかわりが向上
していく学校評価アンケートの実現

《学校評価の改善から生まれていった教育活動》

□改善された学校評価アンケート結果から

「学習参観等に進んで参加し、子どもの学習状況をとらえて支援していますか」

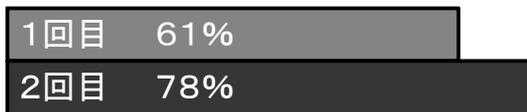
【肯定的評価】



保護者への意識付けが図られ、向上的変容が見られるようになった。

「災害時の避難の仕方や避難場所について子どもと話をしていますか」

【肯定的評価】



汐なり教育の日における「防災」の取組がよい成果をあげている

《学校評価の改善から生まれていった教育活動》

□改善された学校評価アンケート結果から

「学習参観等に進んで参加し、子どもの学習状況をとらえて支援していますか」

【肯定的評価】



子どもの家庭学習状況はあまり変化が見られない。
親の支援とは何をすればいいのだろう。
教え方も分からない。



量的な向上は見られるが、内実はどうなのだろう。



《学校評価の改善から生まれていった教育活動》

□直小ルーム(放課後学習支援教室)の立ち上げへ

- ・ねらい...放課後(月曜日)を利用し、落ち着いた環境の中、自主的に学ぶ子どもを育むとともに少人数個別支援を通して、基礎的基本的な学力の定着を目指す。
- ・内容...○子どもが計画した自主勉強や宿題を中心に学習する。
○3～6年生までの子どもが同じ場所で学習する。
○分からないことは支援ルームスタッフが寄り添い、共に考え支援する。

《学校評価改善から生まれていった教育活動》

□直小ルーム(放課後学習支援教室)の立ち上げへ



参加児童26名、保護者ボランティア3名、上越教育大学生ボランティアスタッフ4名によるスタートを切り、昨年度は10回の直小ルームが開かれた。

《学校評価改善から生まれていった教育活動》

□直小ルーム

(放課後学習支援教室)の立ち上げへ

【保護者ボランティアの感想】

(抜粋)

20名を超える子どもたちが熱心に課題に向かう姿勢に毎回心を打たれています。私は子どもに寄り添いながら一緒に問題を解くことが楽しくなってきました。親は「教える」よりも「一緒に考える」ことが大切だと考え始めています。

共に学ぶことで生まれた保護者の意識改革と子どもへのかわりの変化

《平成26年度汐なりCS 2学期の取組》

昨年度の合い言葉 ともにつくろう 汐なりコミュニティ		
むねをはれる学校	あたたかい家庭	つながる地域
○第2回CS協議会 ・1学期の取組、全国学力・学習状況調査についての評価 ・授業参観による授業改善 ・「汐なり教育の日」の運営		
チャレンジ10・思考力の育成・4プロジェクトの取組から		
「汐なり教育の日」11/15(土) ※11月の第3土曜日		
主催：汐なりコミュニティ・スクール		
子ども・教師自身の取組評価		保護者自身の取組評価

《「汐なり教育の日」がつなぐ学校・家庭・地域》

□ 「汐なり教育の日」とは □

学校と保護者、地域が一体となって教育
について考える日

- ・保護者、地域参画型授業の実施
- ・テーマに基づく講演会の実施

《「汐なり教育の日」がつなぐ学校・家庭・地域》

□ 「汐なり教育の日」に向けて □

授業構想へ ←————→ 講演会構想へ
課題解決に向けたキーワード



CSで重ねる検討



学校・家庭・地域の教育的課題を明らかにする



学校評価



子どもの姿



地域の声



社会の要請

《「汐なり教育の日」がつなぐ学校・家庭・地域》

□ 平成25年度 汐なり教育の日 □ 「防災」をテーマに開催



各学年部の授業では、防災マップを作ったり、「もしものとき...」の避難場所について確認したりしました。



《「汐なり教育の日」がつなぐ学校・家庭・地域》

□ 平成25年度 汐なり教育の日 □ 「防災」をテーマに開催



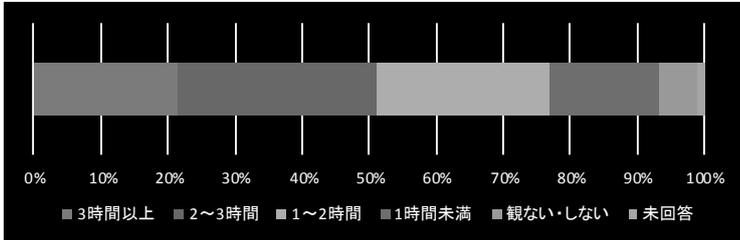
講演会では東日本大震災で被災された小学校教諭の鈴木様を講師に「あの日、被災地では」を演題に命を守る話をさせていただきました。



《「汐なり教育の日」がつなぐ学校・家庭・地域》

【メディアに関するアンケート結果から】

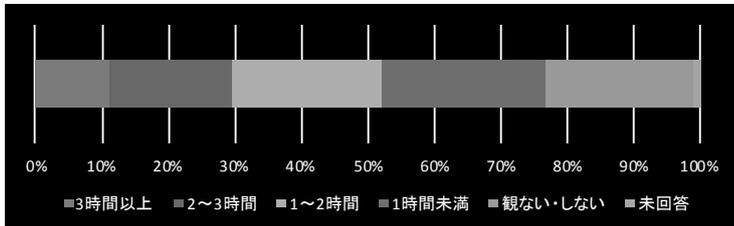
休みの日は家でテレビをよく観ます。(一日平均)



【2時間以上テレビ】

- 1年...49%
- 2年...58%
- 3年...32%
- 4年...26%
- 5年...66% (3h以上42%)
- 6年...63% (3h以上20%)

休みの日は家でゲームをよくします。(一日平均)



【2時間以上ゲーム】

- 1年...19% (3h以上11%)
- 2年...5%
- 3年...32% (3h以上12%)
- 4年...26%
- 5年...39% (3h以上9%)
- 6年...47% (3h以上27%)

《「汐なり教育の日」がつなぐ学校・家庭・地域》

【学校運営協議会における熟議では】



- ・メディア漬けの子ども
の姿が心配
- ・アウトメディアが大切
- ・表面的な生活習慣の改
善は身に付かない
- ・何のためにアウトメディア
をするのかに気付かせたい

《「汐なり教育の日」がつなぐ学校・家庭・地域》

学ぶ意欲や目的のために

夢や志のある子どもの育成

学校の取組

- 子どもたちに夢や志をもたせる取組の推進
- ・道徳や総合的な教育活動において重視する「人」との出会い
- ・学ぶ意欲を大切にする授業づくり
- ・メディア漬けが身体に与える影響の学習

家庭の取組

- 子どもたちに夢や志をもたせるための会話時間の確保
- ・アウトメディアの取組を推進
- ・家庭学習への支援

《「汐なり教育の日」がつなぐ学校・家庭・地域》

□ 平成26年度 汐なり教育の日 □

「夢・志」をテーマに開催



各学年部の授業では、自分の夢を叶えるための生活の仕方や日々の過ごし方について親子や地域の方々と考えer活動を行いました。(上の写真は「親子で討論！家の過ごし方はこれで委員会！？」の授業シーン)

《「汐なり教育の日」がつなぐ学校・家庭・地域》

□ 平成26年度 汐なり教育の日 □

「夢・志」をテーマに開催



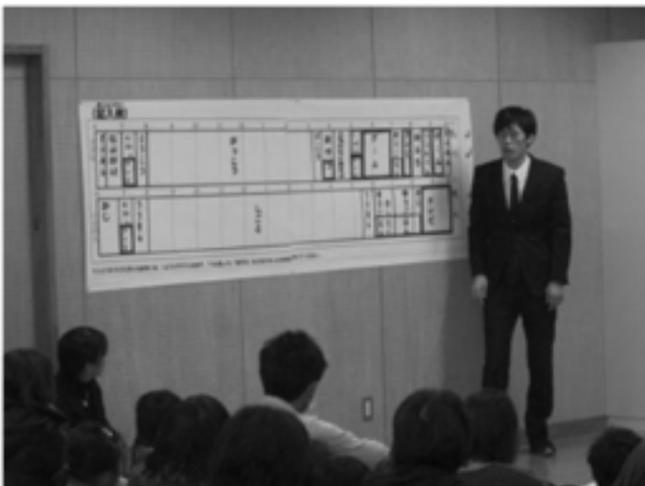
中学年「聞いてください！わたしの夢宣言」の授業シーン

自分の夢を叶えたパティシエの方やピアノの先生をお招きし、話を聞く中で子どもたちは将来に向け、夢を抱いて生きる気持ちを高めました。

《「汐なり教育の日」がつなぐ学校・家庭・地域》

□ 平成26年度 汐なり教育の日 □

「夢・志」をテーマに開催



低学年「やる気アップ大作戦！～見直そう！私たちの家庭生活」の授業シーン

親子で家庭生活を振り返り、話し合う活動を通してよりよい家庭生活をつくろうとする意欲を高めました。

《「汐なり教育の日」がつなぐ学校・家庭・地域》

□ 平成26年度 汐なり教育の日 □

「夢・志」をテーマに開催



日本文理高等学校野球部の大井道夫監督と飯塚悟史選手(直江津小出身)、鎌倉航選手(国府小出身)をお招きし、「夢・志」をテーマに全校道德や講演会を開きました。

《「汐なり教育の日」がつなぐ学校・家庭・地域》

□ 平成26年度 汐なり教育の日 □

「夢・志」をテーマに開催

【参加保護者の感想】(抜粋)

親が子どものために一生懸命になることの大切さ、親は子どものために尽くす。家庭も野球と一緒に一人が欠けるだけでもうまくいかないと感じました。だから、これまで以上に子どもへ愛情を注ぐようにしたいと思います。

【参加地域住民の感想】(抜粋)

直小卒業生がプロ野球選手の道を歩み始めたことは地域にとって誇らしいです。夢を叶えるために我慢したり、努力したりする子どもたちを地域の人間としても応援したいと感じました。

子どもの実態を捉え、子どもが努力する姿を支援する「大人」の意識の向上と行動の変化

《汐なりCSで変わる学校・家庭・地域》

□ 汐なりCSの取組と学校評価(抜粋) □

あいさつの活動連携

○学校評価による意識調査の比較

「自分から進んであいさつをしている」(児童)

「家庭や地域で大人が進んであいさつをしたり声がけをしたりしていますか」(保護者)

	児童	保護者
H25年度	87%	80%
H26年度	96%	92%



《汐なりCSで変わる学校・家庭・地域》

□ 汐なりCSの取組と学校評価(抜粋) □

子どもの学ぶ姿と保護者のかかわり

○学校評価による意識調査の比較

「先生が教えてくれることはよく分かります」(児童)

「学習参観の時や家庭学習の様子から子どもの学習状況をとらえ、支援している」(保護者)

	児童	保護者
H25年度	92%	65%
H26年度	93%	78%



《汐なりCSで変わる学校・家庭・地域》

□ 汐なりCSの取組と学校評価(抜粋) □

家庭内における言語環境の問題

○学校評価による意識調査の比較

「ちくちく言葉を使わず、ふわふわ言葉で友だちと接していますか」(児童)

「大人がていねいな言葉遣いで子どもに手本を示していますか」(保護者)

	児童	保護者
H25年度	86%	38%
H26年度	88%	43%

強い危機感を汐なりCSではもっています！



共育
協働

そして また汐なりCSは動き始めます



《汐なりCSの成果と課題》

■成果

- ・PDCAサイクルが明確化 →新しい教育活動の創造
- ・外部講師(ゲストティーチャー)の増加 → 活動の活性化
- ・子どもの見守られ意識の醸成 → 絆の深まり、規範意識の向上
- ・地域の活動連携の向上
- ・関係者同士の連携、協働する意識の醸成 →CS委員の常駐



着任式で子どもへの紹介を



教務室にはデスクを

会議等にも出席し学校運営に参画

《汐なりCSの成果と課題》

▲課題

- ・学校、家庭、地域がバランスのよい関係を保ち続けること
→それぞれの立場の願いや思いを共有していく
- ・直江津中学校区のCSによる意見交換会の実施
→地域と共に歩む学校像の具現に向けて
- ・ボランティアは当たり前にする」という意識を育てること
→活動に参加することを通し、共感的な理解が必要

ご清聴ありがとうございました。 **共育** **協一** **響**

